緩和ケア病棟（ホスピス） 入退院基準

1. 入院基準

(1) 入院対象

1) 主として、苦痛の緩和（身体的苦痛だけでなく、全人的苦痛の緩和）を必要とする悪性腫瘍の患者を入院対象とする。（緩和ケア病棟入院料算定の対象）

この場合の悪性腫瘍の患者とは、以下の場合が想定される。

- ① 治癒不能と判定された進行がん患者、あるいは治療を拒否した進行がん患者。
- ② がん治療中または治療予定であるが、専門的な苦痛緩和を必要とするがん患者。
- ③ 在宅療養中で、家族の事情等により一時的な入院を必要とするがん患者。

2) 非がん終末期患者（慢性期疾患や高齢者認知症など）、慢性期疾患の急性増悪などで、当院での入院・治療を希望した場合も入院対象とする。（緩和ケア病棟入院料算定の対象外）

いずれも、当院の入院判定会議において入院を承認されることが必要である。

(2) 緩和ケアを目的として入院する場合の条件

1) 患者及び/または家族がホスピス入院を希望していること。

① 患者がホスピス入院を希望する場合

・出来る限り家族の同意も得られていること

② 患者に意思決定能力が無い場合でも、家族が患者の意思を推定し、入院を希望する場合

2) 患者及び/または家族がホスピス緩和ケアの内容を十分に理解していること。

3) 患者が病名・病状について理解していることが望ましいが、理解していない場合には、患者の求めに応じて適切な病名・病状の説明がなされる可能性があることを家族が了承していること。

4) 原則として抗がん剤治療は行わないことを患者及び/または家族が了承していること。

・ 抗がん剤内服中の患者が、退院を前提とした症状緩和目的で入院された場合は投与継続を考慮するが、点滴治療は不可とする。

しかし、症状が緩和されても、その後の退院を希望されない場合は、原則的には中止とする。

- 5) 高度認知症やせん妄・徘徊などの精神症状があり、転倒・転落などの危険があっても、原則として身体拘束は行わないことを患者及び/または家族が了承できること。
- 6) 入院期間に制限は無いが、入院後、病状が安定し、当初の予測より長期入院となる可能性がある場合には、在宅療養や施設入所について検討することを患者及び/または家族が了承できること。

2. ホスピス退院基準

- (1) 患者または家族から退院の申し出があった場合には原則として退院を許可する。この場合、必ずチームカンファレンスで検討する。
- (2) 苦痛の緩和が達成され、病状が安定している場合には、チームカンファレンスで検討した上で、本人及び家族と協議の上、退院を進めていく。
- (3) 暴言・暴力・ハラスメント等の、医療者及び他の患者への迷惑となる発言・行動が続く場合は退院を勧告する場合もある。

3. 当院ホスピスで行う医療行為・処置

- 1) 抗がん剤治療等の積極的がん治療は原則として行わない
- 2) ホルモン療法（前立腺がん・乳がん等）は継続することはある
- 3) 胸水・腹水穿刺、輸血、抗生剤投与、高カロリー輸液、等は、苦痛緩和や QOL 向上につながる場合は行う
- 4) 医師が必要と判断した場合には血液検査、レントゲン検査、CT 検査、等を行う
- 5) 他医療機関の受診は、医師が必要と認めた場合に限る
- 6) 原則的に苦痛を引き延ばすだけの延命処置（救急蘇生）は行わない
- 7) むやみに生命を短縮するような処置（安楽死）は行わない
- 8) 安易に鎮静処置は行わない

4. 当院で提供するホスピス緩和ケア（患者・家族に向けて）

- 1) 患者さまの気持ちになるべく寄り添うことができるよう、傾聴と共感に努めます。
- 2) 苦痛を出来る限り緩和できるよう、精一杯の努力をします。
- 3) 身体的な苦痛のみならず、精神的苦痛（病気を患うことでの不安・いらだち・恐怖など）、社会的苦痛（父親や母親としての苦悩・社会的立場としての苦悩など）、スピ

リチュアルな苦痛（生きている意味や自分の存在の意味が分からなくなることによる苦痛など）など、全人的に理解して、お手伝いします。

- 4) ご家族の方も支えます。
- 5) 医師、看護師だけではなく、ケアワーカー、栄養士、薬剤師など多くの職種とボランティアによりチームで支えます。
- 6) いつでも正しい情報を提供し、治療や検査についても共に考えます。
- 7) あくまで、患者さまの自己決定権を尊重します。
- 8) 希望を支えます。
- 9) 民間療法も否定しません。
- 10) 外泊や外出（旅行など）を希望されれば、できる限り実現に向けて準備をします。
- 11) 患者さまの苦しみを引き延ばすだけの延命処置や死をむやみに早めるような処置は施しません。
- 12) お部屋に好きな絵を飾ったり、好きな音楽をかけたりできます。消灯時間やご家族の面会の制限はありませんし、いつでもご家族の方は患者さまと一緒に泊まることができます。また、簡単な調理場所もありますので、お好きな物を作って召し上がることができます。ペットとの面会も可能です。
- 13) 季節の行事のほか、なるべく自然、芸術、音楽に触れる機会をご用意いたします。

-附則-

一部改正 2020.年 40 月 1 日

一部改正 2024.年 2 月 1 日

一部改正 2025.年 7 月 1 日